

塩原 等 (しおはら ひとし)
東京大学工学系研究科 教授、工学博士



【専攻分野】木質構造、建築構造、耐震構造

【本会活動】

理事（総務担当）：2001年1月～2006年5月

選挙管理委員会委員：2002年4月～2003年3月

電子メディア委員会主査：2005年4月～2006年3月

次世代型地震工学実験施設のあり方に関する研究委員会 委員 2006年4月～2008年3月

東日本大震災シンポジウム実行委員会委員：2011年4月～2012年3月

副会長（学術担当）：2017年5月～2019年5月

【略歴】

1981年3月 東京大学 工学部 建築学科 卒業

1983年3月 東京大学 大学院工学系研究科 修士課程 修了 工学修士

1986年3月 東京大学 大学院工学系研究科 博士課程 修了 工学博士

1986年4月 建設省建築研究所第三研究部研究員

1987年4月 建設省建築指導課係長

1986年7月 建設省建築研究所第三研究部研究員

1991年4月 建設省建築研究所国際地震工学部主任研究員

1993年9月 バージニア・テック大学客員研究員（～1994年9月）

1995年6月 東京大学大学院准（助）教授（工学系研究科）

2012年11月 東京大学大学院教授（現在にいたる）

【受賞】

日本コンクリート工学会功労賞（2016年）

日本建築学会賞（論文）（2011年）

アメリカコンクリート工学会 フェロー（2011年）

日本地震工学会功労賞（2010年）

アメリカ土木学会 J. James Croes メダル（2002年）

日本コンクリート工学協会論文賞（1988年）

【委員会活動(直近5年間)】

日本コンクリート工学会 年次大会 2022（千葉）実行委員長 2021年4月～現在.

日本コンクリート工学会 国際委員会 委員長 2020年4月～2022年3月.

日本コンクリート工学会 国際委員会 委員 2015年4月～現在.

日本コンクリート工学会 JCI-ACI コラボ委員会 委員長 2020年4月～現在.

日本コンクリート工学会 ACT 編集委員会 委員 2004年4月～現在.

日本コンクリート工学会 研究委員会 TC-204A 性能評価型耐震設計に用いるコンクリート構造物の非線形モデル研究委員会 委員長 2020年4月～現在.

日本コンクリート工学会 ISO/TC71 対応国内委員会 WG4 委員 ～現在.

American Concrete Institute: ACI 318-0H Seismic Provisions member 2019年10月～現在.

American Concrete Institute: ACI 318-0L International Liaison member 2019年10月～現在.

American Concrete Institute: ACI 374 member ～現在.

日本建築学会 災害委員会委員長 2021年3月～現在.

日本建築学会 構造委員会委員長 2017年4月～2021年3月.

日本建築センター RC 構造評定委員会 副委員長 ～現在.

ベターリビング 耐震診断評定委員会 委員長 ～現在.

建築基礎・地盤技術高度化推進協議会 副会長 ～現在。
建築教育技術普及センター 構造設計一級建築士講習／審査会議 議長 ～現在。
防災科学研究所兵庫実験センター E-ディフェンス利用委員会 委員長 ～現在。
日本水道協会 水道施設耐震工法指針・解説改訂特別調査委員会 委員 2018年3月～2022年3月。
日本建築防災協会 特殊建築物等調査資格者講習運営委員会 委員長 ～現在。
日本建築防災協会 構造計算適合判定資格者検定委員会 委員長 2021年4月～2022年3月。
日本建築防災協会 あと施工アンカーガイドライン策定委員会 委員長 2020年4月～2022年3月。

【著書および主要論文(代表的なもの 10 編以内)】

塩原等, 小林楓子, 佐藤友佳, 楠原文雄: 鉄筋コンクリート造多層平面骨組の地震応答と柱梁接合部の耐震設計, 日本建築学会構造系論文集, 第 82 巻, 第 739 号, 2017 年 9 月, pp.1437-1447.
日本建築学会: 鉄筋コンクリート構造保有水平耐力計算規準・同解説, 2021 年 2 月 (分担執筆)。
楠原文雄, 金秀禧, 塩原等: 接合部降伏する鉄筋コンクリート造骨組の地震応答解析, 日本建築学会構造系論文集, 第 78 巻, 第 686 号, 2013 年 4 月, pp. 847-855.
塩原 等. 鉄筋コンクリート柱梁接合部: 梁曲げ降伏型接合部の耐震設計, 日本建築学会構造系論文集, 第 74 巻第 640 号, 2009 年 6 月, pp. 1145-1154.
塩原 等. 鉄筋コンクリート柱梁接合部: 終局強度と部材端力の相互作用. 日本建築学会構造系論文集, 第 74 巻第 635 号, 2009 年 1 月, pp. 121-128.
塩原 等. 鉄筋コンクリート柱梁接合部: 見逃された破壊機構. 日本建築学会構造系論文集, 第 73 巻, 第 631 号, 2008 年 9 月, pp. 1641-1684.
日本建築学会: 現場打ち同等型プレキャスト鉄筋コンクリート構造設計指針(案)・同解説 2002 年 11 月, (分担執筆).
Shiohara H.: New Model for Shear Failure of RC Interior Beam-Column Connections, Journal of Structural Engineering, ASCE, Vol. 127, No. 2, February, 2001, pp. 152-160.

【所信】

日本地震工学会では、2001年に設立された草創の時期に今では地震工学のレジェンドとなられた先生がたの中に加えていただき、初代の総務理事として参画させていただき、地震工学に対する熱意と努力を目の当たりにする経験を得ました。また、電子メディア委員会主査として、委員の皆様のご協力を得て地震工学会の学会活動を下支えするウェブサイトなどの情報基盤充実に取り組み、ウェブサイトのコンテンツの構造化に取り組む中で、地震工学における多岐にわたる活動とそれをまとめ残し引き継ぐ意義について考える機会を得ました。2017年5月からは副会長として福和会長を支え、地震学、建築構造学、土木構造学、機械学、地盤工学で地震工学に取り組んでおられる若い方々との交流の機会を得ました。

監事として選出いただけましたら、これまでの本会の活動経験を生かしつつ、地震工学会の発展のために、理事に選任される皆様と協力しながら職務を全うする所存ですので、どうぞよろしく願いいたします。

以上